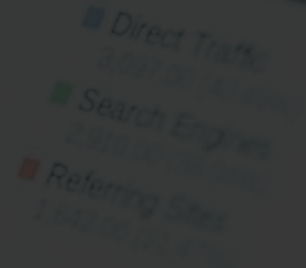


25,423 Pageviews

3.32 Pages/Visit

Traffic Sources Overview



令和4年度グローバル・スタートアップ・エコシステム強化事業 (社会的起業家に関する調査事業) 調査報告書

株式会社 PoliPoli

Visitors
2,958

本調査の結果に対する考察の総論

1.学生の起業及び社会的起業に関する意見募集、及び2.学生の社会的起業を支援する場所づくりについて、学生が社会課題解決分野で起業するにあたっての意識調査を行った。以下は、1.学生の起業及び社会的起業に関する意見募集で募集した意見について、学生が（特に社会起業分野で）起業するに当たって重要な要素や課題を体系化し、そこから考えられる検討すべき施策例を記載したものである。なお分析の観点として、岸田政権が令和4年11月に発表した「スタートアップ育成5か年計画」の3本の柱である『人材・ネットワーク構築』、『事業成長のための資金供給と出口戦略の多様化』、『オープンイノベーションの推進』を用いている。

学生が起業（特に社会的起業）をする上で重要な要素

ネットワーク／コミュニティから受ける影響	起業のきっかけと、その阻害要因	起業時・起業後の継続性を確保するためのリソース
● 社会起業家という生き方を知る ● 社会起業家に憧れを抱く ● 起業を身近に感じ、「自分にもできる」と思う（特に地方では起業家と出会う機会が少なく、起業イメージをつかみにくいことが課題） ● 起業や社会課題への解像度を高める ● 起業プロセス及び資金を含めた経営ノウハウ等、起業に関する情報を得る場所 ● 社会課題や起業について語れる仲間や、ロールモデルになりうる人物との対話機会	● 起業のきっかけ ● 自身や知人の経験、及び深く共感した学習内容があり、解決を望むとき ● 自身のアイデアやアクションが評価されたとき ● ビジネスになりそうな事業が閃いたとき ● 上記を阻害し得る要因 ● 社会課題が複雑で、自身では解決できないと感じたとき ● 新卒で企業に就職した方がキャリア上有利であると考えたとき	● ノウハウ ● 専門家が周りにおり、悩みを相談できること ● 資金調達のめどがたつこと ● ビジネスモデルや収益化までの道筋の確立 ● キーパーソンへのアクセス ● 必要な人材の確保ができること ● 行政や大企業との連携可能性 （地方創生等、特に社会課題解決分野では行政との連携が重要であるが、スタートアップでは連携ハードルが高い）

検討すべき施策の例

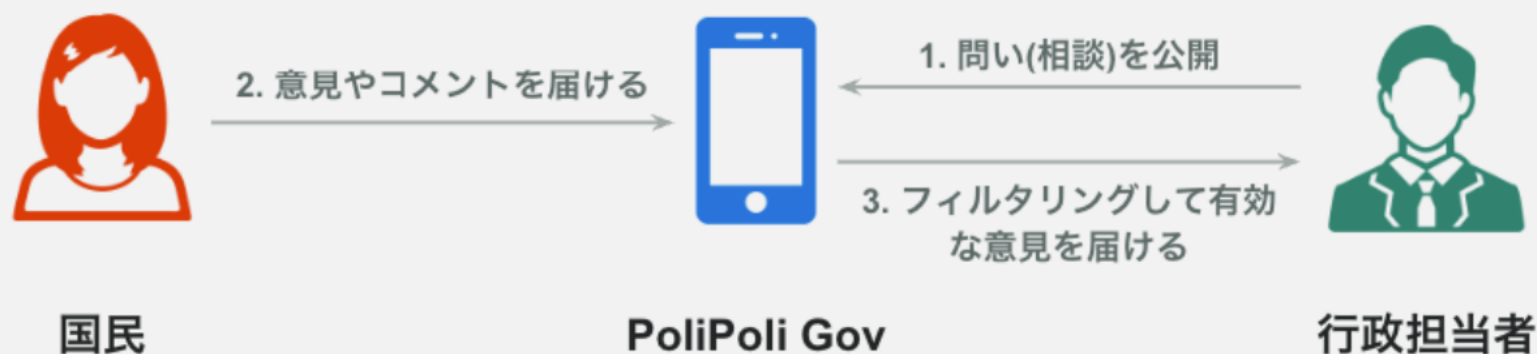
人材・ネットワーク / オープンイノベーション	資金供給と出口戦略	その他
● 学生と起業家のネットワーキングの促進 ● 特定の社会課題に関する意見交換会や、社会起業家コミュニティの形成サポート。特に、課題の多い地方とリソースの多い都市の交流促進 ● 学生のスタートアップやベンチャーキャピタルでのインターンシップの推奨 ● スタートアップと大企業・行政・アカデミアの連携促進 ● 特定の社会課題に関する産学官連携イベントの開催 ● ニーズを持つ自治体とシーズを持つスタートアップのネットワーキングの場の創出	● 収益化まで時間のかかる社会課題分野における資金調達の多様化 ● ベンチャーキャピタルや地域金融機関等によるインパクトスタートアップへの投資促進や公共調達への拡大 ● 出口戦略を含めた事業戦略面でのサポート ● 税理士、弁護士、会計士等の専門領域における支援の拡充 ● アクセラレーター等による伴走支援	● 起業家教育の強化 ● アントレプレナーシップ教育の拡充。例えば、自身のアイデアで誰かの課題を解決できたという成功体験を得られるようなプログラム（「お試し起業」等）を教育現場や地域コミュニティで提供するなど

1. 学生の起業及び社会的起業に関する 意見募集の結果

意見募集の概要と実施結果

- 実施内容：学生が起業及び社会的起業を行うきっかけや、そのきっかけを作る環境に関する意見募集を2つのテーマを用いて実施した。
[意見募集のテーマについて]
 - ①学生が起業を意識する（意識しそう）なのは、どのようなときだと思いますか？
また特に社会課題解決分野で起業する場合は、どのようなときだと思いますか？
 - ②学生が社会課題解決分野で起業するにあたってのハードルと、必要な支援は何だと思いますか？
- 調査方法：デジタルツール「PoliPoli Gov(β版)」を用いたインターネットリサーチ

意見募集の仕組み



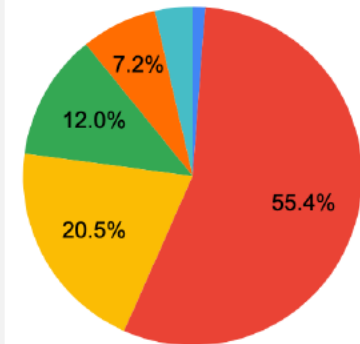
※プラットフォーム内のコミュニティを健全に保つため、投稿されたコメントが攻撃的な内容や広告目的と判断された場合に、運営側でコメントを非公開としています。

意見募集の概要と実施結果

- 調査日程：2023/01/11～2023/02/28（48日間）
- 調査地域：全国
- 総コメントユーザー数：83人
 - ユーザーIDの重複を削除した値より、ユニークユーザー(UU)数を算出
- 総コメント投稿数：351件
 - コメント公開基準に抵触する非公開コメントを除外した値を算出
- 【コメント数の内訳】
 - 160件：テーマ①
学生が起業を意識する（意識しそう）なのは、どのようなときだと思いますか？また特に社会課題解決分野で起業する場合は、どのようなときだと思いますか？
 - 191件：テーマ②
学生が社会課題解決分野で起業するにあたってのハードルと、必要な支援は何だと思いますか？
- 当該意見募集ページの総閲覧数：674pv
 - Googleアナリティクスより算出
- 回答者の年代・属性（自由回答）：右グラフのとおり

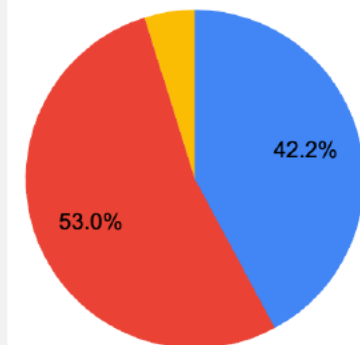
回答者の年代（UU数）

● 10代以下 ● 20代 ● 30代
● 40代 ● 50代 ● 60代以上



回答者の属性（UU数）

● 学生 ● 社会人 ● その他



「スタートアップ育成 5 か年計画」と、その基準を用いたコメント分類について

「スタートアップ育成 5 か年計画」とは

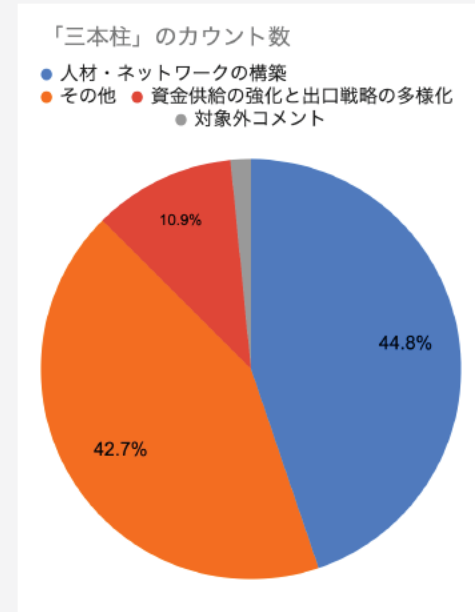
岸田政権は「新しい資本主義」を実現するため、スタートアップを持続可能な経済社会を実現する成長のエンジンと位置付け、2022年をスタートアップ創出元年とすることを宣言した。現在の日本は、米国や欧州に比べてスタートアップの開業率が低く、ユニコーン数も少ない。戦後の創業期に次ぐ第二の創業ブームを実現するため、官民連携でスタートアップを生み育てるエコシステムを創出することを目指す。この5 か年計画では、人材・ネットワーク構築の観点、事業成長のための資金供給と出口戦略の多様化の観点、オープンイノベーションの推進の観点から取組をまとめている。

(参考：新しい資本主義実現本部／新しい資本主義実現会議「スタートアップ育成 5 か年計画」.内閣官房
https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/atarashii_sihonsyugi/pdf/sdfyplan2022.pdf, (2023年03月31日閲覧))

- 本意見募集の結果を分析するにあたって、スタートアップ育成 5 か年計画の大きな 3 本柱をもとに選択基準を作成し、ユーザーからのコメントをそれぞれ分類した。
- 同計画の 3 本柱について
 - 第一の柱：スタートアップ創出に向けた人材・ネットワークの構築
 - 第二の柱：スタートアップのための資金供給の強化と出口戦略の多様化
 - 第三の柱：オープンイノベーションの推進

結果と全体考察 | コメントの傾向（3本柱）と、各項目に寄せられた意見の抜粋

PoliPoli Gov（β版）で「**学生が起業を意識する（意識しそう）**なのはどのようなときだと思いますか？また特に**社会問題解決分野で起業する場合、どのようなときだと思いますか？**」というような問いを設定し、意見募集をした結果、特に、社会問題解決分野で起業する場合について以下の二点のことが分かった。



1. **44.8%**の回答者が、**人材・ネットワーク**が起業を意識するきっかけになると言及した。
2. **10.9%**回答者が、**資金供給と出口戦略**等についての知識・ノウハウ不足が起業へのハードルになると言及した。

▷意見の傾向：特に社会課題領域においては、学校の授業・ゼミ等のコミュニティや、学生自身の身近な経験から得た課題感をもとに起業の意識が高まる傾向にある。しかし起業に必要なステップのイメージや資金面を含む経営ノウハウがないために、断念しているケースが見られた。

結果と全体考察 | コメントの傾向（3本柱）と、各項目に寄せられた意見の抜粋

● 人材・ネットワークの構築（44.8%）に関する意見

- 学生の頃、起業は全く身近ではなく、一部の人たちが凄いことをやって起業してるんだと思ってました。東京に出て起業家の人たちと話すことがあったりして起業のエコシステムをなんとなく理解したことで、やろうと思えば自分でも出来そうだと思えました。（20代、社会人）
- 早い人は、授業やワークショップ、課外活動などを通じて中高生の頃から起業家精神に目覚めています。また在学中に大学のゼミに参加したり、大学が運営するインキュベータープログラムに参加したりして起業に目覚めることが多い気がします。（20代、学生）

● 資金供給と出口戦略（10.9%）に関する意見

- 起業に対する知識を得る機会、時間、資金面での不安、学生のうちにできるのかと思う。（20代、学生）

● オープンイノベーションの推進に関する意見

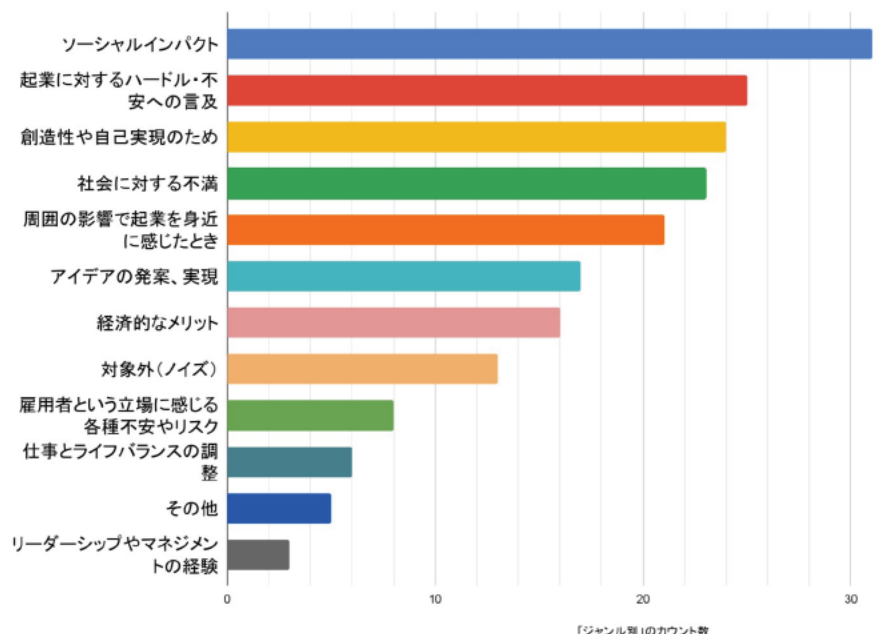
※当意見募集においては、産学連携や企業の共同開発などをもとにした意見は寄せられなかった。

● その他（39.6%）に関する意見

- 自らの経験に基づいて、解決したいと強く感じたときに起業を意識すると思う。例えば、難民の方から直接話を聞く→難民の方を助けたいという強い思いを抱く→起業してこの問題に取り組むなど。（20代、学生）
- ソーシャルイノベーション研究のゼミに所属しビジネスコンテストにも参加した経験がある。そこで社会問題などについて調べていくうちに興味を持った。課題をどこに設定しビジネスの観点からどのように解決できるかを考えていくなかで、これなら事業化できるというような仕組みを思いつけば起業を意識すると思う。（20代、学生）
- 社会課題を認識し、他分野で培った知識、経験、思考、モノの考え方の転用を閃いたときに起業を意識すると思う。数は多くないが、その案をもとにプロジェクト化することがあった。（20代、社会人）

結果 | コメントの傾向（ジャンル別）と、各項目に寄せられた意見の抜粋

言及内容の分類 ※1つのコメントに複数の意見が含まれている場合は、要素ごとにそれぞれ分けて集計



各ジャンルごとの意見の傾向

- **ソーシャルインパクト**：自身が何かを体験したときや、学校で学んだときに、起業への関心が高まる
- **起業に対するハードル・不安**：経営や人材確保などビジネスとして成功させる自信がない／必要なステップがわからない
- **創造性や自己実現**：起業家の話を聞いたり本を読んだり、インフルエンサーの発信を通して憧れを抱く。
- **社会に対する不満**：自分がその課題に直面したとき（起業を志すきっかけがネガティブなこともある）
- **周囲の影響で起業を身近に感じたとき**：起業経験のある人が身近にいたり、導いてくれる大人（アドバイザー、賛同者）が存在するとき
- **アイデアの発案、実現**：Bizコンなどの場で自分のアイデアが他者に認められたとき／だれもやっていないニッチな領域を思いついたとき
- **経済的なメリット**：収益化までのプランを具体的に立てることができたとき／社会課題にビジネスチャンスを感じられるとき
- **被雇用者という立場の不安やリスク**：終身雇用が前提でなくなっていること／企業に就職したくないと考えている場合
- **仕事とライフバランスの調整**：自由な時間がほしいと思ったとき／自分のスキルで就業場所にとらわれない働き方をしたいとき
- **その他**：行政から事業資金の支援があるとき
- **リーダーシップやマネジメントの経験**：リスクの少ない学生時代に試しに一旦起業してみたいと思ったとき

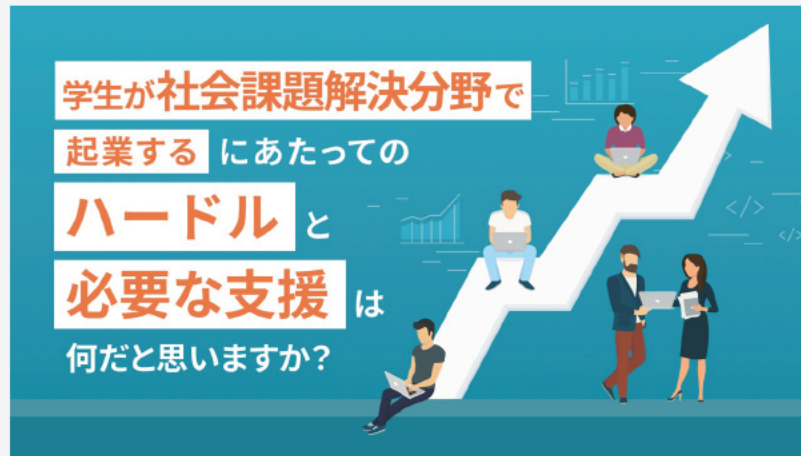
※コメント内の意見が複数の要素に分割できる場合、該当コメントを選択肢の数だけ複製し、それぞれに適切な分類を割り付けた。そのためコメント分類作業における総意見数は、実際のコメント数と一致しない。



- **アイデア**：だれも挑戦していないと直感したとき（20代、社会人）／ビジコンなどでアイデアが他の人に認められたとき（30代、社会人）
- **身近**：周囲で起業した人がいるとき（30代、社会人）／自分や社会の身近な課題が解決されていないと感じたとき（20代、学生）／起業したい業種と同系統の業種で相談しやすい立ち位置の人が身近にいるとき（30代、社会人）
- **分野**：社会課題を認識し、他分野で培った知識、経験、思考の転用を閃いたとき（20代、社会人）／大学の授業で様々な分野の起業家の話を聞いたとき。起業はやろうと思えばできると感じた（20代、学生）
- **学生**：アプリ制作などある程度のスキルがあり、資金調達する必要もなく自己完結できる場合、試みに学生のうちに起業してみようと思える（30代、社会人）／起業に関するイベントがあっても、日々の勉強や部活に追われて、情報に接触する機会がない（20代、社会人）
- **起業家**：大学の授業で、起業家の方の話を聞いたとき、起業を意識した／多くの学生は、授業やワークショップ、課外活動などを通じて起業家精神に目覚めている（20代、学生）
- **解決**：社会課題解決分野の企業就活やインターンに関わり、その企業とは別のアプローチで課題解決をしたいと考えるとき（20代、社会人）
- **ハードル**：起業してもそれを続けられるのか不安。オンラインでできたり、生活が保障されていればハードルは下がる（20代、学生）／事業のために多くを学ぶ必要があることがハードル。他者との競争に勝つか、かなりニッチなものを見つけ出さない限りうまくいかないと思う（20代、学生）
- **ビジネス**：社会課題の解決が大きなビジネスチャンスだとわかったとき（30代、社会人）

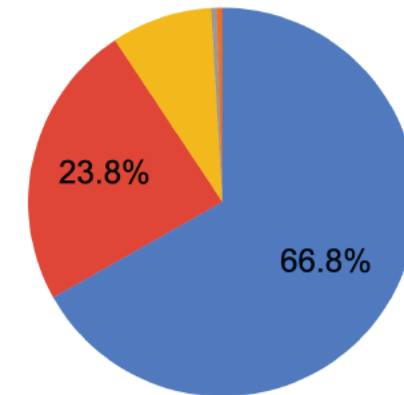
結果と全体考察 | コメントの傾向（3本柱）と、各項目に寄せられた意見の抜粋

PoliPoli Gov（β版）で「**学生が社会課題解決分野で起業するにあたってのハードルと、必要な支援は何だと思いますか？**」という問いを設定し、意見募集をした結果、以下の三点のことが分かった。



「三本柱」のカウント数

- 人材・ネットワークの構築
- 資金供給の強化と出口戦略の多様化
- オープンイノベーションの推進
- 対象外コメント ● その他



1. **66.8%**の回答者が、起業を志す者同士のコミュニティなどの**人材・ネットワーク構築**について言及した。
2. **23.8%**の回答者が、**資金供給と出口戦略**に関する知識やノウハウの不足について言及した。
3. **8.4%**の回答者が、市場全体や労働環境における**オープンイノベーションの推進**に対する支援について言及した。

▷意見の傾向：特に社会課題解決分野での学生起業は、収益化やビジネスモデルの確立が難しい等、スタートアップの参入障壁が高く、また行政や大企業との連携が難しいと考えられている。必要な支援として、起業ノウハウやネットワークの取得に向けた場の設定や、行政との連携等が挙げた。

結果と全体考察 | コメントの傾向（3本柱）と、各項目に寄せられた意見の抜粋

- **人材・ネットワークの構築（66.8%）**に関する意見
 - 大学のキャリアセンターに起業支援のシステムが盛り込まれると、キャリアの選択肢として起業が見えてくると思う。OB訪問のように起業した人とコンタクトが取れると嬉しい。（20代、学生）
 - やりたいことをどうビジネス化したら良いかについて、起業して成功した方の話を聞ける機会を作る（20代、社会人）
- **資金供給と出口戦略（23.8%）**に関する意見
 - 資金調達やお金の管理の仕方等の知識がないため、そういうことを学べる無料講座の開設が必要だと思う。起業したとしても人手不足で公認会計士や税理士を雇えず、お金の管理をできる保証がない。（20代、学生）
 - 社会課題分野は一般的な企業とは違うため、ビジネスモデルの確立が難しいと感じます。（20代、社会人）
- **オープンイノベーションの推進（8.4%）**に関する意見
 - 新技術に対して実験をしやすくするため、他の地域とは異なる税制上の優遇措置を置く国家戦略特区などを作れば良いと思う。（20代、社会人）
 - 社会問題解決型のビジネスモデルは実現可能性と参入障壁が高いのに対し、行政や大企業と連携がしづらい面もあるため、改善したい。（30代、社会人）
 - 地方創生分野など、参入障壁が非常に高いので実績が必要ではあると思うが スタートアップでは行政との連携は難しい点（30代、社会人）
- **その他（0.5%）**に関する意見
 - 自分たちの行動の成果が目に見える形で表れにくいのがハードルが高く感じます。一般的な企業は消費者のニーズにこたえてそれが会社の売上という形で現れますが、社会課題は売上などとは違うため、成果が見えにくくどれくらい社会に貢献できているかわかりにくいため（20代、社会人）
 - 社会課題解決分野で起業する難しさは、自分たちだけが頑張れば解決できる問題でないということ。環境問題を例に挙げると、自分たちだけが懸命に活動しても他者が変わらなければ環境改善は見込めない。（20代、社会人）
 - 学生が自身のアイディアに「社会価値」を見出せないことが問題と感じます。そこで、社会の中に「自分はこう思う、こうしたい」「これが出来るなら、こっちも出来そう」と実感できるきっかけを用意できませんか？（20代、社会人）
 - 日本では圧倒的に、新卒入社の方が将来的にも有利でありキャリア学歴志向である以上、起業できないと諦める母数は一定数いるかと思います。（30代、社会人）



- **場の提供**：起業に関する知識を得られる場が少ない（30代、社会人）／ハウツー動画、サイトや相談、教えてくれるようなスクール、カウンセリングなどの場があればいいのと思う（20代、社会人）
- **起業知識**：事業アイデアのニーズの測定や、事業認知のノウハウが得にくい（20代、社会人）／アイデア精査をするにあたり自分ひとりでは行き詰まってしまう（20代、学生）
- **起業資金**：資金面が心配（30代、社会人）／まとまった資金を学生のうちに準備するのは難しい。一定の期間までは経費を無料にするなどの支援を行うのはどうか（40代、社会人）
- **学べる**：ビジコンに参加し良いビジネスモデルを作ることができたが、いざ起業を考えると何をすればいいかわからない（20代、学生）
- **コミュニティへのアクセス**：参加ハードルが低い初心者向けのスタートアップ界隈の集まりがあればいいなと思います（20代、社会人）／人脈を作りたい（20代、社会人）／起業家が集まる場など、先駆者とのつながりを持てる場所がほしい（30代、社会人）／コミュニティに関しては、地方によって大きな差があり、大都市圏には人が集まりやすいですが、地方は人が集まりにくい（20代、学生）
- **金銭的支援**：斬新なアイデアは失敗するリスクが高く、融資をしてくれる人がいない。資金の調達が無理で起業を諦める人も多いと思う（20代、学生）
- **起業に対するイメージアップ**：企業に就職したほうが安泰だという日本の風潮（20代、社会人）／スタートアップだとPMF（※）まで2.3年かかることもある。PMFさせるのは起業家の力量や運やマーケット次第だが、行政と事業に取り組むことで箔をつけ、スタートアップを支援することもできると思う（20代、社会人）

12

2. 『学生の社会的起業を支援する場所づくり』 についての意見交換の結果

意見交換会の概要 | 全3回にわたり有識者との意見交換会を実施

● 実施目的：

経済産業省で令和5年度に実施予定の「学生の社会的起業を支援する場所づくり」に関する事業について、起業家や投資家との意見交換を行い、社会的起業分野に関する最新の動向の情報交換や、事業の実施方法についての意見収集を行った。

第1回 1月13日



テーマ：

多くの学生を集め、起業家志望の学生とそうでない学生の交流を生むためにはどのようにすればよいか

第2回 2月10日



テーマ：

場所づくりを行う上で気を付けるべきポイントについての検討
①起業家を志望する学生に対して実施する予定のアクセラレーションプログラム
②学生が交流する場所づくり

第3回 3月17日

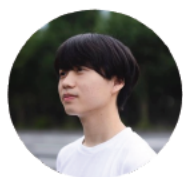


テーマ：

起業家を志す学生の立場から、理想の支援や場所についての検討

有識者プロフィール | 第1回意見交換会

現在活躍する多くの起業家等からの参加があった。※第3回は参加者が学生のため紹介なし



伊藤 和真

株式会社PoliPoli
代表取締役



北村 優斗

株式会社Gab
「清走中」
プロデューサー



巴山 雄太

株式会社アオイエ
代表取締役



中川 公貴

認定NPO法人CLACK
事務局長 兼 理事



中沢 冬芽

株式会社Alumnote
代表取締役



原田 岳

株式会社taliki
取締役



宮野 雄弘

合同会社ワクラボ
代表

※敬称略、五十音順
※社名・役職名等は令和5年3月時点

有識者プロフィール | 第2回意見交換会



上 ひかり

京都工芸繊維大学
デザイン専攻
修士1年



太田 圭哉

株式会社UNERI
株式会社Ridilover
所属



河合 将樹

株式会社UNERI
代表取締役



北林 和樹

NPO法人
サニーサイド
児童ホームつくし部長



京田 祐里奈

Lupinus合同会社
CEO



工藤 柊

株式会社ブイック
代表取締役CEO



鶴田 七瀬

一般社団法人
ソウレッジ
代表理事



永井 彩華

株式会社
IRODORI
執行役員 CPO



西岡 貴史

株式会社たびふあん
代表取締役



咸 多栄

bgrass株式会社
代表取締役CEO



古井 茉香

株式会社ゼブラ
アンド カンパニー
インターン



南 翔伍

一般社団法人
ペアチル 代表理事



吉川 夕葉

株式会社ブイック
取締役COO



米倉 伸哉

株式会社アオイエ
全体統括

※敬称略、五十音順
※社名・役職名等は令和5年3月時点

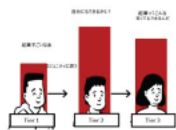
第1回 | 実施テーマとイベントの様子

テーマ：多くの学生を集め、起業家志望の学生とそうでない学生の交流を生むためにはどのようにすればよいか

ディスカッションテーマ

学生寮プログラムにおいて、
Tier-Nの学生を巻き込み、寮に来てもらうためには、
どのような仕組みがあればいいか？

Tier-Nとは？



2. グループディスカッション(40min)

1. 自己紹介とアイデア発表
2. 各人の発表が終わり次第、新たにアイデアがあれば出ていきましょう。
3. ファシリテーターはプロジェクトメンバーが行います。
4. なるべく数多く出しましょう。
5. その上で最後5分くらいで一番優秀なグループとしてのアイデアをお選びください。



第1回 | 各回で有識者から挙がった意見（※抜粋）

○意見交換会の概要

「学生の社会的起業を支援する場所づくり」について、多くの学生を集め、起業家志望の学生とそうでない学生の交流を生むためにはどのようにすればよいかについて議論を行った。その結果、有識者からは①学生同士での気軽な交流機会の創出②多くの学生を呼び込むためのPR戦略③ターゲットとなる学生についての検討を行うべきとの指摘があった。

① 学生同士での気軽な交流機会の創出についての指摘

- ・ 飲食を伴う交流機会（鍋パーティー等）や、スポーツ観戦等のイベントを実施することで、学生の交流の機会を生むことができるのではないかな。
- ・ 既存の学生コミュニティ（学生団体や県民の会など）と交流する機会を作ることで、より多くの学生にアプローチできるのではないかな。

② 多くの学生を呼び込むためのPR戦略についての指摘

- ・ 過去にはテレビ番組やYouTube上で起業を題材にした番組があり、話題を呼んだ例がある。こういったムーブメントを活用し、多くの学生にPRできたらよいのではないかな。

③ ターゲットとなる学生についての指摘

- ・ 「起業家志望でない学生」の属性などを分析にし、その中でもどのような学生に参加してほしいのかを明確にすべきではないかな。
- ・ 参加した学生に、事業終了時にどのような状態になってほしいのかを明確にすべきではないかな。

第2回 | 実施テーマとイベントの様子

テーマ：場所づくりを行う上で気を付けるべきポイントについての検討

- ①起業家を志望する学生に対して実施する予定のアクセラレーションプログラム
- ②学生が交流する場所づくり

事前分析とは
対外秘録・暫定版

概要

プロジェクトが成功、失敗したと仮定して、その成功、失敗の原因を分析し、対策をたてるブレインストーミング

狙い

事業開始の前に社会起業家の視点からリスク発見と対策検討をすることで、プロジェクトの成功確率を高める

実施内容

1グループ1プロジェクト(①社会起業家版「未踏」もしくは②学生寮プロジェクト)について事前分析を行う



第2回 | 各回で有識者から挙げた意見（※抜粋）

○意見交換会の概要

「学生の社会的起業を支援する場所づくり」について、①起業家を志望する学生に対して実施する予定のアクセラレーションプログラム②学生が交流する場所づくり、の2つの観点に着目してワークショップを行った。その結果、下記のような意見が見られた。

① 起業家を志望する学生に対して実施する予定のアクセラレーションプログラムについて

- アクセラレーションプログラムに参加する学生を選考する際、他のアクセラレーションプログラムでメンター経験のある外部有識者等が審査に参加できる体制を作ること、ミスマッチが起きにくい体制を作るとよいのではないか。
- 起業の手前の段階（例えばβ版リリース等）で、燃え尽き症候群になってしまう例が多いので、そうならないように学生のモチベーションを高め、伴走支援をすることが重要ではないか。
- 学生がビジネスモデルを構築する段階で、解決したい社会課題の現場を知らずに、机上の空論で事業が進んでいかないと、現場のフィールドワークやリサーチなどができる機会があればよいのではないか。

② 学生が交流する場所づくりについて

- 学生同士の交流を促進し、議論を活発化する仕組みとして、例えば学生の自主学習や活動を支援する体制（例えば書籍の充実、海外の有識者等の接続支援など）があったらよいのではないか。
- 学生同士での人間関係のトラブルを防止するため、コミュニティマネージャーを配置し、コミュニティルールの設計などが行われたらよいのではないか。

第3回 | 実施テーマとイベントの様子

テーマ：起業家を志す学生の立場から、理想の支援や場所についての検討



第3回 | 各回で有識者から挙げた意見（※抜粋）

○意見交換会の概要

「学生の社会的起業を支援する場所づくり」について、学生の視点から、この事業に参加したいと思うかどうかなど、率直な意見を伺った。その結果、①起業家に長期間参加してもらえるような仕組みづくり②地方学生の誘引などについての指摘があった。

① 起業家に長期間参加してもらえるような仕組みづくり

- ・ 長期間自分の会社を不在にすることのマイナスが大きいと、短期間でも参加できるようなプログラムがあったほうがよいのではないか。
- ・ 長期間同じメンバーと過ごす、意見が似通ってきてしまうため情報の新規性を付与していく必要があるのではないか。例えば、プログラムに複数回中間発表を設けてメンターに発表し、フィードバックをもらいモチベーションを高めるなどの工夫があったらよいのではないか。また、事業の進みが早い人はプログラムを卒業し、新しい起業家が参加する形でもよいのではないか。

② 地方学生の誘引について

- ・ 地方では全国規模のビジネスコンテスト等の数が少なく、東京に行く機会も限られている。そのため、地方の学生に参加してもらい、東京でのスケールを目指すような事業づくりを行ってもらえるとよいのではないか。地方でのビジネスコンテストにおいても、その後の支援やスケーラビリティが推測できると、参加学生の期待値も上がるのではないか。



行政とつくる、日本の未来